



滝之上火薬製造所跡



軍艦「春日」



現地に今も残る石臼



展示中の石臼

(上野原縄文の森 第46回企画展「新発見! かごしまの遺跡2016」～11/13まで)で展示中

【参考文献】

- ・海軍省『西南征討志』巻一 1885年
- ・公爵島津家編纂所『薩藩海軍史』1925年
- ・川越重昌「鹿児島県敷根火薬製造所」『鉄砲史研究』1986年
- ・「鹿児島県敷根火薬製造所址(2)」『鉄砲史研究』1986年
- ・「鹿児島県敷根火薬製造所(3)」『鉄砲史研究』1986年
- ・「鹿児島県敷根火薬製造所終稿 薩藩火薬史跡実踏記(19)終」『鉄砲史研究』1990年
- ・国分高等学校郷土研究クラブ『敷根火薬製造所跡発掘調査報告書』1989年
- ・秋吉龍敏「敷根火薬製造所始末記」『敬天愛人』2012年



鹿児島県立埋蔵文化財センター



TEL(代表) 0995-48-5811
ホームページ <http://www.jomon-no-mori.jp/>

敷根火薬製造所について

敷根火薬製造所は、滝之上火薬製造所(鹿児島市稲荷町)の分局として文久3(1863)年に建設されました。本製造所は、薩摩藩の集成館事業の一環として設置されたもので、他藩に先んじた近代化の中核をなすものと位置づけられます。

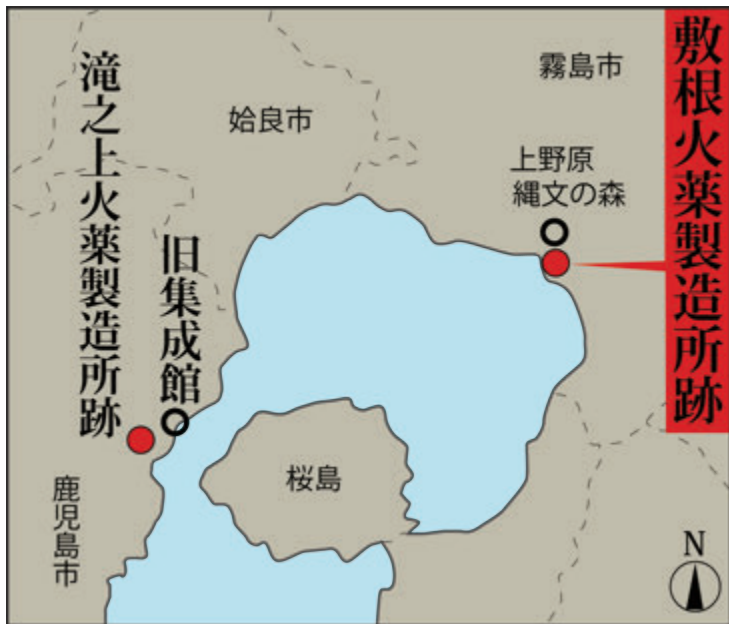
本製造所は、導水路により高橋川の水を引き込み、のべ8基(推定)の水車動力を駆使して石臼を動かし、原料を粉碎して年間24トンの火薬を生産していたとされています。

廃藩置県後の明治5(1872)年には政府管轄となり、明治10(1877)年3月10日、西南戦争において西郷軍への弾薬補給分断のため、政府軍によって焼き払われます。

製造所跡地は、その多くが水田となっていますが、当時のものと考えられる石垣があちこちに残っており、水車への導水路の一部は、農業用水路として現在も利用されています。

関連年表

西暦(和暦)	鹿児島・日本の動向	敷根火薬製造所関連
1863(文久3)年	薩英戦争	大隅国敷根に火薬製造所を建設し、伊勢仲左衛門を見聞役とする。
1872(明治5)年		廃藩置県後に陸軍省管轄となる。
1873(明治6)年		陸軍省から海軍省管轄になる。
1877年(明治10)	2月19日	西南戦争勃発
	3月10日	軍艦「春日」(政府軍)より、伊東祐磨指揮官らが敷根上陸。焼き払われて消失。
	9月24日	西南戦争終結
西南戦争後		敷根の職工6名が東京に招かれ、目黒陸軍火薬工場で指導にあたる。



現地説明会資料 平成28年7月23日(土)

田園に浮かぶ巨大工場群 ～水車跡を探して～

敷根火薬製造所は、集成館事業の一環として文久3(1863)年に薩摩藩が設立した、当時としては国内最新・最大の火薬工場でした。上野原台地を削って平野に流れ出た高橋川の扇状地上に、傾斜地形を生かして建設された施設群は、主に3つのエリア(A:水車動力による原料粉碎施設群、B:大型水車を中心とする火薬精製施設群、C:応接施設などを含む事務・管理棟群)から成ると考えられ、敷地面積25,000㎡にも及ぶ広大なものでした。

平成27年度に続き2回目となる今回の調査は、昨年度と同じくAのエリアにおいて、前回未調査の地点で水車跡・水車路を見つけることを目標に実施しました。

田園の里山にそそり立つ建物の数々、音を立てる水車たち。その姿を思い描きながら、さあ、工場見学へ出発しましょう。

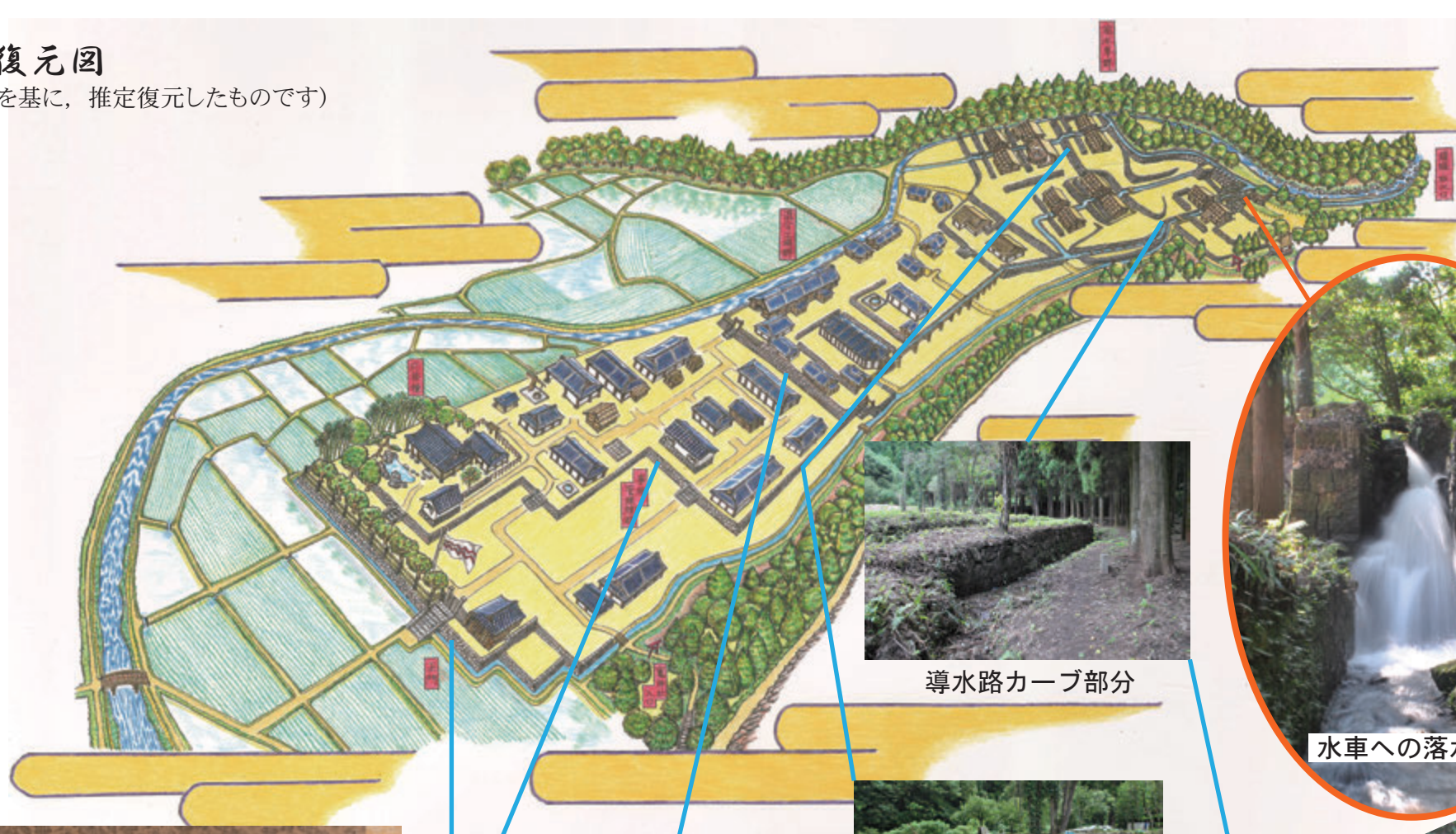


※今回の発掘調査は、県立埋蔵文化財センターが平成27年度から着手している「かごしま近代化遺産調査事業」に伴うものです。10月には「久慈白糖工場跡」(瀬戸内町)の発掘調査を実施する予定です。

「かごしま近代化遺産調査事業」
敷根火薬製造所跡

遺構復元図

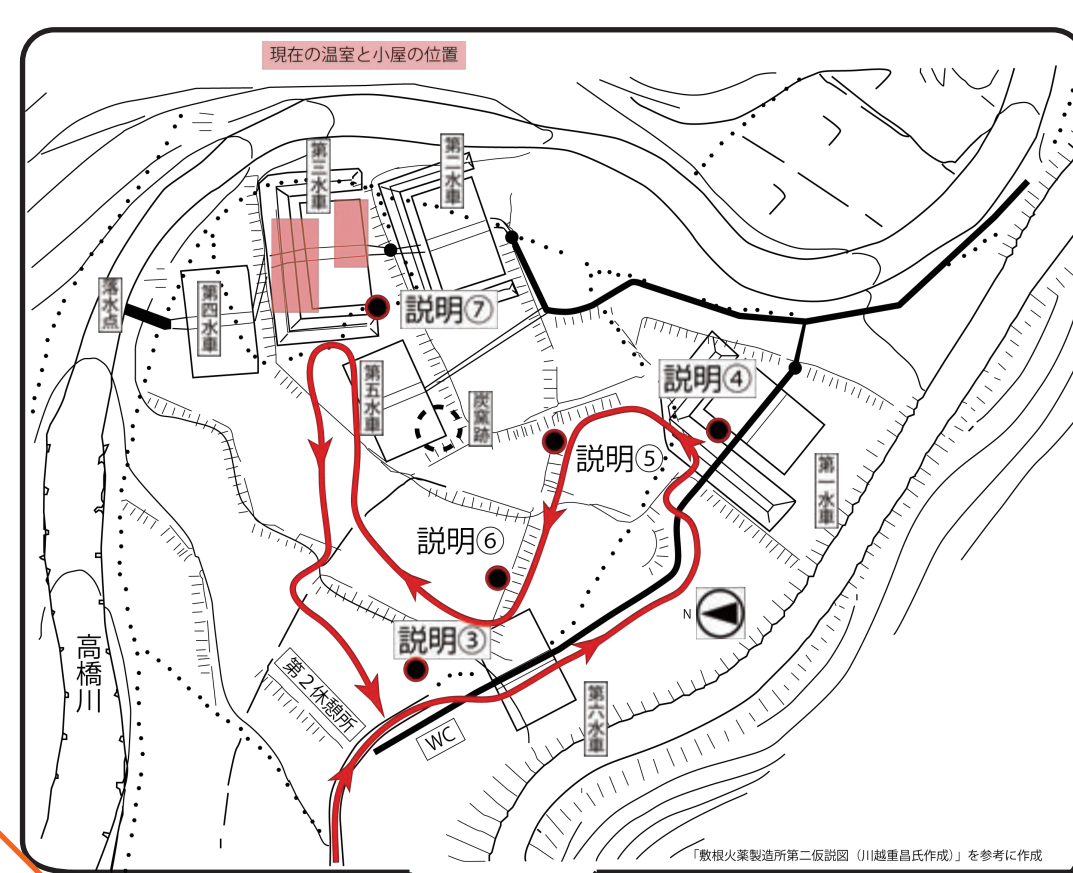
(※絵図を基に、推定復元したものです)



導水路カーブ部分



水車への落水口



「敷根火薬製造所第二版説図（川越重昌氏作成）」を参考に作成



敷根火薬製造所絵図＝鹿児島市
維新ふさと館提供



水車跡付近の石垣



L字になった石垣



敷根火薬製造所入口付近の石垣



石垣



受付，第一休憩所（説明①）

説明②

第2休憩所



昭和中頃まで使われていた
水車跡及び導水路



竈（かまど）神社石碑

遺構配置図及び見学コース